

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2020年

No. 117

2020年12月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦
© JASE. 2020 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

コロナ禍における性教育……………1	思いこみのめがね ³³ ……………13
ピアカウンセリング手法による性教育の 萌芽・展開・展望……………7	多様な性のゆくえ ⁴⁴ ……………14
「ありのままのわたしを生きる」ために・その後 ⁴ ……12	今月のブックガイド……………15
	JASEインフォメーション……………16

コロナ禍における性教育

ヘルスプロモーション推進センター 岩室 紳也

コロナ禍における性教育は誰に必要

「コロナ禍における性教育」というタイトルは自由に変更していいとのことだったが、敢えてこのタイトルのまま原稿を書かせていただくこととした。コロナ禍で一番性教育が必要なのが大人だということを繰り返し見せつけられたからだ。

新型コロナウイルスについて公衆衛生医の立場で発信⁽¹⁾し続けていたら某テレビ局から新型コロナウイルス対策のコメントをして欲しいと出演依頼がきた。テレビ局に入って打ち合わせをしていたら、若いディレクターが岩室のコンドーム柄のネクタイを指して「申し訳ないが視聴者からクレームが来ると困るのでネクタイを変えて欲しい」と言ってきた。事前に話があっても断っていたが、その場で別のネクタイを用意されて「はいそうですか」と岩室が承知するはずもない。

さらに番組の中で話の流れから「新型コロナウイルスはキスでうつる」と話したらスタジオが騒然となっ

た。一人ひとりの混乱の原因を勝手に想像すると、昼間の番組で「キス」という言葉を使うなんてと思った、そもそも「キス感染」という発想がなかった、自分自身の昨今のキスのことを思い返して急に不安になった、いろんなことが思い浮かぶが、正直なところ、何でたかが「キス」でこんなに大騒ぎをするのか不思議とともに面白かったというのが正直なところだった。うんと小さいエアロゾルでうつるとか、エアロゾルより大きい飛沫を吸い込んでうつることを心配しているのであれば、それらよりもはるかに大量のウイルスを含む唾液の交換が危ないに決まっている。その後も「キス感染に注意」という報道はほとんど聞かないが、新型コロナウイルス感染症は立派な性感染症である。

別のテレビ局が「夜の街応援！プロジェクト」⁽²⁾として新型コロナウイルス対策の訪問指導をしている場面取材にきた際に、ディレクターに「もっとキスで感染することを報道して欲しい」とお願いしたらびっくりする返事が返ってきた。「キスで感染するのは常識過ぎるので放送する必要はない」とのこと。開いた口が塞がらないというのはこういうことである。本気

で国民の常識と思っていたらとんでもない誤解であり、上司を説得する気もないというのであればマスコミ人失格である。報道も教育も自分の思いや価値観ではなく、対象のニーズに合わせて必要な情報を的確に伝えることが基本であるが、この返答にはただただあきれられるばかりであった。それなりの企業で活躍している若い人たちがこのように性ときちんと向き合おうとしないだけではなく、クレーマーや職場の上司に気を使って新型コロナウイルスでのキス感染のような、一人ひとりの国民にとって必要不可欠な情報提供を拒むことは危機的といえる。性教育の対象を子どもたちだけではなく、若い世代の大人たちにも広げる必要性を痛感させられた。

子どもたちにとっての「性」は大人にとっての「新型コロナウイルス」と同じ

皆さんは新型コロナウイルスをどのようにとらえ、どのように対応しているのだろうか。そして今の自分自身の新型コロナウイルスの知識は適切だと思っているのだろうか。岩室は臨床医としてHIV / AIDSをはじめ、様々な性感染症の診療に関わる一方で、公衆衛生医として結核、O157、ノロウイルス、インフルエンザなどに対応してきた。また、性教育だけではなく、健康教育全般の中で様々な感染症の予防に関する普及啓発を行ってきた。そのような経験があったにもかかわらず、さすがに新しい感染症である新型コロナウイルスをどう受け止め、どう普及啓発をしていけばいいかについて日々迷い、模索を今でも繰り返している。様々な情報を自分なりに受け止めながら、いろいろな人とのコミュニケーションを通して自分の考え方を検証、修正し続けてきた。ところがある時、興味深いことに気づかされた。自分自身が新型コロナウイルスへの対応で繰り返してきた作業は、思春期以降に自分自身の性、二次性徴の発来で日々変わる自分の体や心と向き合っていた時の作業と同じだった。

中国武漢で患者が報告されても他人ごと。自分の周囲で「毛が生えた」という友人がいても他人ごと。

気がつけば日本でも感染者が出て慌てているいろいろ情報収集。自分も毛が生えて大慌てで情報収集。

その後は新型コロナウイルスについて日々情報収集、他人との意見交換、情報発信の繰り返し。自分自身の

二次性徴、マスターベーション、性欲等々でも同じく情報収集、仲間やパートナーとの意見交換、お互いの情報発信の繰り返しだった。

自分が経験するまでは他人ごと。経験して初めて自分ごとになって慌てふためくのが人間なのかもしれない。

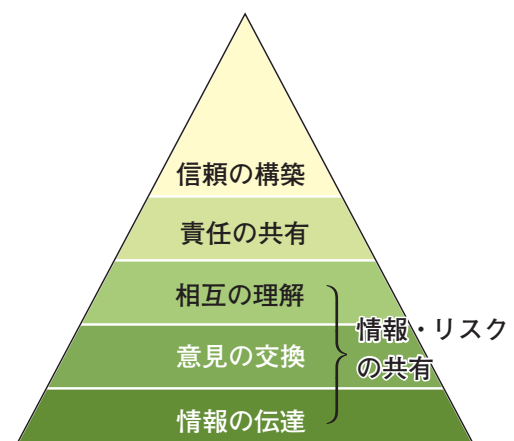
子どもたちにとっての「性」は大人にとっての「新型コロナウイルス」と同じ未知の世界との遭遇である。すなわち、子どもたちが受けている性教育は、まさしく大人たちが受けている新型コロナウイルス教育と同じである。では、大人たちはいま、専門家が、マスコミが行っている新型コロナウイルス教育のおかげで正しい知識を得、正しい予防行動ができているのだろうか。できているとしたらこんなに感染は拡大しないはずである。では教育が悪いのか、受け手の問題なのか、それとも他に要因があるのか。

性教育に必要なリスクコミュニケーション

岩室が新型コロナウイルスと向き合ってきたプロセスも、自分自身の性と向き合ってきたプロセスも結果としてリスクコミュニケーション（下図）⁽³⁾ だったと今更ながら気づかされた。「性」と向き合うにも、「新型コロナウイルス」と向き合うにも、最終的にきちんと向き合えるようになるには、正しい情報提供だけではなく、個人の努力だけでなく、仲間を含め、多くの人とのリスクコミュニケーションが不可欠であった。

多くの人々は性教育の目的を正しい情報の伝達と思っている。確かにそれは重要なことだが情報の伝達だけ

図 リスクコミュニケーション 5つの段階



では不十分であることもまた多くの人が感じている。男女がセックスをする際に必要なリスクコミュニケーションを5つの段階に沿って考えると理解しやすい。

セックスをすれば妊娠や性感染症のリスクがあるという情報の伝達は不可欠となる。その上で、セックスをしたいか否か。セックスをするリスクは何か。リスクを避けるにはどのような手段があるのか。このようなことでの意見の交換が必要不可欠だが、そもそもこのような意見の交換ができる関係性か否か。さらには意見交換をするコミュニケーション能力があるのかが問われることになる。どちらかがセックスを避けたいとしたときに相手が理解してくれるか、受容してくれるか否か。セックスをするとなった場合に避妊や性感染症予防に失敗した時の責任をどう共有するのか。このようなリスクコミュニケーションが成立すれば自ずと信頼関係の構築が達成されているはずである。すなわち、リスクコミュニケーションは信頼関係の構築の過程であり手段でもある。

新型コロナウイルス対策で欠けている リスクコミュニケーション

「新型コロナウイルスがキスで感染するのは常識」と言ったディレクターはリスクコミュニケーションの基本となる情報の伝達を拒否しただけではなく、意見交換も拒絶していた。もちろん岩室との間に相互の理解もなければ、キスで感染した人に対する責任も取らない。このような関係性で信頼は構築されない。ではこれまで新型コロナウイルスに関して繰り返されてきた「マスク」、「手洗い」、「換気」、「3密回避」という情報しか伝達してない人たちのリスクコミュニケーションに問題はないのだろうか。

反省を込めて言うと、岩室はHIV/AIDS予防に取り組んでいた初期の頃、HIV感染予防には「ノーセックス」か「コンドーム」と強調していた。しかし、後にこのメッセージがいかに稚拙であり、多くの人を傷つけていたか。さらには万が一このメッセージを岩室から聞いた人がHIVに感染したら、岩室のHIV/AIDS外来に来てくれないことに気づかされ、愕然としたのを覚えている。「ノーセックス」か「コンドーム」というメッセージはただただ正解を押しつけてただけで、そこにはリスクコミュニケーションの視点

がない。

正解依存症

新型コロナウイルス予防での「マスク」、「手洗い」、「換気」、「3密回避」も、HIV/AIDS予防で「ノーセックス」、「コンドーム」も単に正解を伝えているだけである。正解を求める国民もマスコミから流されるこれらの情報を他の人と検証することなくただただ鵜呑みにしている。「3密」は流行語大賞を取り、「密、密、密、密、密」と生徒を叱っている教師が後を絶たない。正解を与えようとしている専門家たちも、自分たちが発信している情報が今のままでいいのかを検証することを怠っている。国民も専門家も正解を追い求めるだけの正解依存症になっている。

岩室が考える正解依存症とは「自分なりの正解を見つけると、その正解を疑うことができないだけではなく、その正解を他の人にも押し付ける、自分なりの正解以外は受け付けない、考えられない病んだ状態」である。マスク警察も、同じことしか言えない専門家たちも正解依存症である。

もっとも、自殺対策では「悩んだら相談しよう」、「いのちを大切に」、「SOSの出し方教育」、薬物対策では「ダメ絶対」、SNSトラブル対策では「情報モラル教育」と、国も専門家も様々な対策で正解を伝えるだけで満足している正解依存症といえる。

目から入る情報でわかったような気に

多くの人は新型コロナウイルス関連の情報をテレビや新聞等の目から入る情報として入手している。その結果、わかったような気になってはいないだろうか。北山修は、「目から入る情報はわかったような気になるだけだが、耳から入る情報は想像力を育み記憶に残る」⁽⁴⁾と教えてくれていることに学べば、いま、多くの国民が正しいと思っていることの中には間違った知識や誤解が少なからずあると考えた方がいい。

岩室は中高生向けの講演をマイク一本で行っている。それは中高生が受け取った情報について、自分自身の想像力の中で考え、受け止めてもらいたいという思いからだ。一方で大学生以上の大人向けには映像であるPowerPointを使っているが、単に正しい情報を伝え

るのではなく、その情報の根本にあることを含めて伝え、理解を深めてもらうためである。しかし、そのような講演を一回見聞きしただけでは理解できないことを想定し、講演で使用した PowerPoint を公開している。

マスクに関するリスクコミュニケーション

新型コロナウイルスが流行し始めた当初、マスクが店頭から消え、政府から布製のマスクが配布された。今ではマスクは一大市場となり、様々な種類のものが当たり前のように販売されている。しかし、マスクの本来の意味もきちんと理解されていないばかりか、フェイスシールドやマウスシールドがまるでマスクと同じ機能があるかのように誤解されている。

マスクはあくまでも感染している人が咳や会話時に排出する飛沫が拡散しないようにするためのものであり、材質の違いで飛沫やエアロゾル拡散防止効果も異なる（下写真）⁽¹⁾。布製のマスクは飛沫をそれほど通さないが、マスクを装着していない時より多くのエアロゾルが排出する。ポリウレタンマスクはエアロゾルの排出が増えるだけでなく飛沫も通す。不織布マスクが一番飛沫もエアロゾルも抑えるがメガネが曇ることからも隙間からエアロゾルが出ている。一方でフェイスシールドやマウスシールドは顔とプラスチック製のシールドとの間に隙間があるため、そこから飛沫が落下する。テレビの料理番組でフェイスシールドやマウスシールドを装着して調理をしている人が後を絶たないが、落下した飛沫は料理に付着して接触（媒介物）感染する。

ちなみに、口から排出されても直下に落下する 500 μ m

写真 マスクの材質とエアロゾル、飛沫拡散



の大きな飛沫と 2メートル先まで飛ぶとされる 5 μ m の小さな飛沫の体積差は 100 万倍である。当然のことながら大きな飛沫に含まれているウイルス量は膨大であり、これらが付着した料理を食べれば、飛沫やエアロゾルを吸い込むよりはるかに感染リスクが高い。

たかがマスクだが、マスクの意味とリスクをどれだけの国民が理解をし、実践しているだろうか。繰り返しになるが、岩室が日々情報をバージョンアップできているのは決して一人だけの努力ではなく、多くの人たちとのリスクコミュニケーションの結果である。マスク一つとっても、正しい情報を伝えることは至難の業である。ましてや性について正しい情報を伝えることはもっと難しいことだと自分に言い聞かせている。

コンドームに関するリスクコミュニケーション

改めて自分自身が発信していた「ノーセックス」か「コンドーム」というメッセージの問題点を指摘したい。パートナーがセックスを求めてきても、自分はしたくないからしないと拒否できている間はいい。しかし、拒否できないとしたら、なぜできないのかをフォローした支援が必要となる。もし自分もセックスをすることに同意した場合、ではお互いにコンドームが使えるか。ちゃんと事前に入手できているのか。コンドームの達人の YouTube⁽⁵⁾ を見た上で、事前に練習をしたのか。使ったとしても予防できない性感染症に罹患するリスクを知った上で覚悟ができているのか。コンドームが破れた場合の対策として緊急避妊ピルのことを知っているのか。どこに連絡をすればすぐ入手できるかを事前に確認しているのか。このようにいろんな情報を入手しておかなければならないが、それだけの情報の入手ソースを持っているのか。たかがコンドーム、されどコンドームである。

実はコンドームが一番難しいのが、コンドームという言葉了他者と共有することである。先に紹介したように、コンドームのネクタイがテレビ番組に登場することさえもはばかられる風潮がある中で、コンドームに関するリスクコミュニケーションを語ることのハードルは非常に高い。実際、中学校や高校でコンドームの実物を紹介し、装着することを拒否する学校もあるが、容認する学校もある。その違いはまさしく装着法を紹介している岩室と教師、さらには生徒を含めた責

任の共有、信頼関係の構築ができていないか否かの違いである。

感染症対策で繰り返されるヘイトスピーチ

性感染症では信頼関係の構築を阻害するメッセージが繰り返し発信されている。HIV / AIDSの初期の頃、感染拡大を防ごうと多くの人から「不特定多数との性交渉」、「風俗産業」、「男性同性間性的接触」、「ハッテン場」といったハイリスクな人を見つけ出し、その人たちがいる場所や危険な行動を避けるような呼びかけがあった。一見合理的にみえるこのような呼びかけはかえって感染している人たちに対する偏見を生み、異性愛者が感染を知ると「どうして異性愛者の私が」という誤解が広まった。

新型コロナウイルス対策でも「夜の街」、「ホストクラブ」、「接待を伴う飲食店」といった性的なイメージが付きまとう場が名指しで非難され、まるでそのような場にいる人が感染を拡大させている犯人かのごとく扱われてきた。政治家が「“夜の街” 要注意」といったプラカードを持って記者会見をしている姿はヘイトスピーチそのものである。

法務省はヘイトスピーチを「特定の民族や国籍の人々を、合理的な理由なく、一律に排除・排斥することをあおり立てるもの」と定義している。新型コロナウイルス対策でのヘイトスピーチは「特定の地域や職業の人々を、合理的な理由なく、一律に排除・排斥することをあおり立てるもの」ではないかと指摘すると、合理的な判断だとの反論を受ける。広辞苑では「合理的」は「①道理や理屈にかなっているさま。②物事の進め方に無駄がなく能率的であるさま。」と書かれているが、特定の地域、場面、職業を排除することで成功した健康づくりはない。

なぜホストクラブでクラスターが

HIV / AIDSが紆余曲折はあっても、結果として社会の偏見や誤解を少しずつ払拭する方向に動けたのは、何より当事者の活動があったからである。薬害エイズの問題を解決したのは紛れもなく、薬害の被害者の人たちであった。男性同性間性的接触での感染拡大の当事者たちがカミングアウトした結果、今ではゲ

イの人たちだけではなく、LGBTQへの理解が広がりを見せている。岩室は様々な活動を通して薬害エイズの被害者やゲイの人たちとつながるだけでなく、刺青で感染した人たちや望んだ妊娠を契機に感染が判明した人たちと接してきたからこそ、「感染している人」や「どこで感染したか」ではなく、「ウイルスはどこから、どこへ、どうやって」という感染症予防の基本にたどり着いた。だからこそ「ホストクラブでクラスター」と聞いた瞬間、頭の中に「キス感染」が浮かんだ。

性感染症の診療をしていると、いろんな職業の人たちに関わる。泌尿器科医というと男性患者、婦人科が女性患者と思われがちだが、梅毒は皮膚科でも、泌尿器科でも、婦人科でも診ているが、勤務している厚木市立病院だと何故か岩室の外来に回される。その結果、同じ風俗店であっても、女性客を相手にしているホストと男性客を相手にしている風俗嬢とでは仕事上だけではなく、様々な場面での性生活が異なることを知るところとなる。

ホストが女性客とキスをすることや、アフターと称して一緒に食事をするだけではなく、セックスすることもある。一方で風俗嬢はフェラチオなどのサービスを提供するものの、男性客とキスをしないため、男性が遊ぶ風俗店で新型コロナウイルスのクラスターが発生したという話は聞かない。感染症対策も、性教育も、感情論や価値観を取り除いた上で、きちんと、科学的、論理的に行う必要があるが、それができないのがまた人間であることを今回の新型コロナウイルスの混乱が示している。ちなみに梅毒になった人たちのほとんどが、コンドームが梅毒の予防効果が限定的であることを知らない。

夜の街応援！プロジェクト

HIV / AIDSで当事者に学んだように、新型コロナウイルスでヘイトスピーチを浴びせられている当事者に会い、できることを一緒に考えたいという思いで立ち上がったのが「夜の街応援！プロジェクト」⁽²⁾である。実際にホストクラブやゲイバーを始めとしていろんな店舗を訪問し、その店や業態に則した、具体的なアドバイスを行っている。

ホストクラブでのキス感染をどう防ぐか？

純潔教育的に言えばノーキス、キス禁止しかない。もちろんそれは一つの選択肢だがそれ以外の方法を提示できなければ感染症予防の専門家とは言えない。リスクをゼロにはできないが、キスの前に「素敵なキスに乾杯！」とシャンパンなどのアルコール類を飲んでお互いの口の中のウイルスを胃に流して減らす。キスの後にも「素敵なキスに乾杯！」と口の中に入った相手のウイルスを胃に流すことを勧めている。このようなアドバイスができるのも、ウイルスはどこから、どこへ、どうやって、という基本に忠実だからである。

コロナ禍でやりやすくなった性教育

2020年8月頃から学校現場で直接生徒に話す、マイク一本の性教育講演会を再開している。新型コロナウイルス感染拡大の前と比べ、確実に生徒の理解が高まっていると感じるのが性感染症予防である。大人も同じだが、目に見えない病原体に感染し、しかも症状が出ない人もいるというのを感覚的に理解することは難しい。しかし、新型コロナウイルスを通して、正しく理解されているか否かは別として、「感染」、「発症」、「無症候性感染」、「感染経路」といったことがある程度子どもたちの中に入っている。

生徒は全員マスクをしているが、2メートル以上の距離を確実にとった状態で岩室はマスクを外す。「新型コロナウイルスは飛沫で感染するけど、飛沫は何メ

ートル飛ぶ？」と聞くと「2メートル」と答えられる生徒は少ない。さらに「全員マスクを外してみても。すごく息が楽になったよね。その状態で手のひらに息を吹きかけると手のひらが湿るのがエアロゾル。エアロゾルは体育館の扉が開け放たれているので空気の流れに乗って拡散させて予防するしかない。マスクをしていたらかえってエアロゾルをいっぱい出していることになる。咳を手のひらにかけるとベトッと湿るのが飛沫で2メートルしか飛ばない。みんな岩室の方を見ているので、前の人の頭の後ろについたとしても口の中に入らなければ感染はしない。若い人で感染するリスクが高い行為はキス。だってキスだと飛沫よりも大量のウイルスを含んだ唾液の交換が起きる」と一気にたたみかける。

生徒だけではなく一緒に聞いている教師も、「えっ、キスもダメ!?!」となり、恥ずかしさとか、そこまで話すか、といった思いは吹っ飛び、自分自身の問題としてどうとらえればいいのかを考え、その後の様々な性の話も、ごく当たり前の、真剣な科学的な話として受け止めてくれる。

性教育はよく生きるための教育といわれるが、性教育をしている人こそ、このコロナ禍で新型コロナウイルスのことを正確に、科学的に学習し、性教育の中に盛り込んでいただきたい。そうすることで、今まで以上に生徒の、教師の心に響く性教育になることを実感していただければ幸いである。

【参考文献・インターネット】

- (1) <http://iwamuro.jp/corona>
- (2) <https://yorunomachiouen.wordpress.com/>
- (3) <https://resilient-medical.com/risk/communication-definition-example>
- (4) 北山修：『最後の授業』みすず書房、東京、2010
- (5) <http://iwamuro.jp/shyo/youtube>

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です (tel 03-6801-9307)。貸出業務は行っていません。

【開室日・時間】月～金曜日 11:30～16:30 (コロナ感染拡大予防のため、開室時間を短くしています)

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※その他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

資料室 利用方法

収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー (自然科学系、人文・社会学系)、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際 (海外団体資料・海外学術誌)、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。
<https://www.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>